

代表取締役 吉田 隆

●菅井先生のこと

JIC国際文化研究所の菅井深恵先生との出会いは昭和60年7月の設立間もない頃だった。

国際化をテーマとしたセミナーで講師を務められた三井物産(株)の〇〇〇〇部長のお引合せだった。昭和59年に開催した国際シンポの成功に気を良くし、国際化を熱心に口にしていた頃で、〇〇部長ご最良(ひいき)のカラオケ屋で世界のサイエンティストとの交流の夢を語らう内、吉田さんと同じ夢を持つ人がいるよとご紹介いただいた。

昭和60年の設立直後、社員3名の頃の盛和ビルにJICの看板を掲げ、菅井先生と机を向きあい仕事をしていた時期もある。菅井先生は岐阜県中津川市の旧家のご出身である。叔父の関博雄氏は、王子製紙(株)副社長の要職を務めていたが、菅井先生がその叔父の意思を継ぎ(財)関科学技術振興記念財団を設立し運営に携わっている。第一営業部の関尚弘氏は菅井先生のいとこ筋に当たる。菅井先生に古曳正夫氏をご紹介いただいたのは昭和62年頃だった。

「親しい友人で凄腕の弁護士がいるわよ!彼を講師にセミナー開催してはどう?」と誘いを受けた。そのセミナー「一分間でできる債権回収法」は圧倒的な人気と集客力を誇った。テクノシステムとの共催で、常に100名前後の受講者があった。

●古曳先生のこと

古曳先生は日本最大級の弁護士事務所森綜合法律事務所(現、森・濱田

松本法律事務所)の原始パートナーであり、数々の大事件を解決に導いた押しも押されもしないわが国を代表する大弁護士の一人だった。その古曳先生にはもう一つの顔があった。シルクロード研究者兼雑誌「ハルプーザ」発行人兼編集長、加えて劇団「チャチャ」を主宰していた。尤もご当人によれば編集長は‘かみさん’ということになる。その奥方、古曳宣子さんとはサマルカンドでのロマンティックな出会いがなれ初めとお聞きした。数年前、惜しまれつつ弁護士の資格を返上されたのも、時期を得シルクロード研究をまっとうせんがためである。学生時代にシルクロードに魅せられ多忙な業務の傍ら月刊「ハルプーザ」を35年間、1回の休刊もなく継続してきた。セミナー終了後、四谷三丁目の酒場‘カンツォーネ’でチャチャの歌姫の美声に聞き入り、ハルプーザの会の忘年会に顔を出し「吉田君!チャチャのシルクロード劇の王子様役をやらない!?!」と誘われたりする内、いつしか私自身シルクロードの魅力を覚えるようになった。古曳先生は毎年恒例のシルクロードの旅を企画している。2001年8月には「天山花街道の旅」、2002年8月には「ハルプーザ・ウズベキスタンの旅」に参加する機会を得た。2001年の旅の記録は、本誌2001年10月、11月号に掲載した。

弁護士古曳先生には、会社としても大変お世話になっている。特に、森・濱田松本法律事務所は、知財分野では日本有数の陣容を誇り、知財戦略が益々事業展開に不可欠になりつつあるNT

Sにとり、心強い相談先である。かつて、米国出版社アカデミック・プレス(AP)社による弊社刊「ゲル・ハンドブック」の翻訳版発刊の際、古曳先生より専門の弁護士をご推薦いただき、AP社や編集委員・著者との長丁場の契約実務を成功裏に導いていただいた。

●星空のシルクロード

貴重な海外文化の経験の機会でもある「ハルプーザの旅」は、多忙なため3年ほど参加を見合わせている。旅先で古曳先生の切れのいい解説を聞きつつ、中央アジアの古跡を見聞する機会は得がたく、東アジアや欧米とは異なる、西アジア、中央アジアのイスラム風文化、文明に触れることで様々な刺激が得られる。再び参加の機会を得ることと同時に、古曳ご夫妻の益々のご健勝を願っている。本稿のタイトル「星空のシルクロード」は、2002年の旅で訪問したウズベキスタンのアムダリヤ川流域の古跡アヤズカラでパオに野宿した際、仰ぎ見る満天の星空と流星群の圧倒的な美しさにちなんだ。私の海馬にエピソード記憶として永遠に刻み込まれ、思い出すたびニューロンが盛大に発火し続けることだろう。



アヤズカラの朝

●編集後記

暑さ寒さも彼岸まで、日本の四季にまつわる言葉はたくさんある。春は菜種梅雨、秋の長雨、今年は例年に無く地球規模で台風、ハリケーンの話がとびかった。もう10月、衣替え、防虫剤の臭いが電車に充満する季節でもある。素材も綿や麻からウールに替わり、カシミヤのふんわりとしたぬくもりが恋しくなる時期がそこまでやってきている。絹もしかり、ちょっと奮発して絹素材のものを身につけると、ちょっとリッチでウキウキした気分になってしまう。いくつになっても、女性はきれいでありたいと思うもの、絹の效能のお話にも思わず聞き入ってしまった私(笑)。そのいろいろなご研究の内容に感心したり、ワクワクしてしまったり。帰りにちょっと奮発して、絹のストールでも買おうかな。(あしだ)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース

2005年10月号(通巻80号)
2005年10月7日発行